

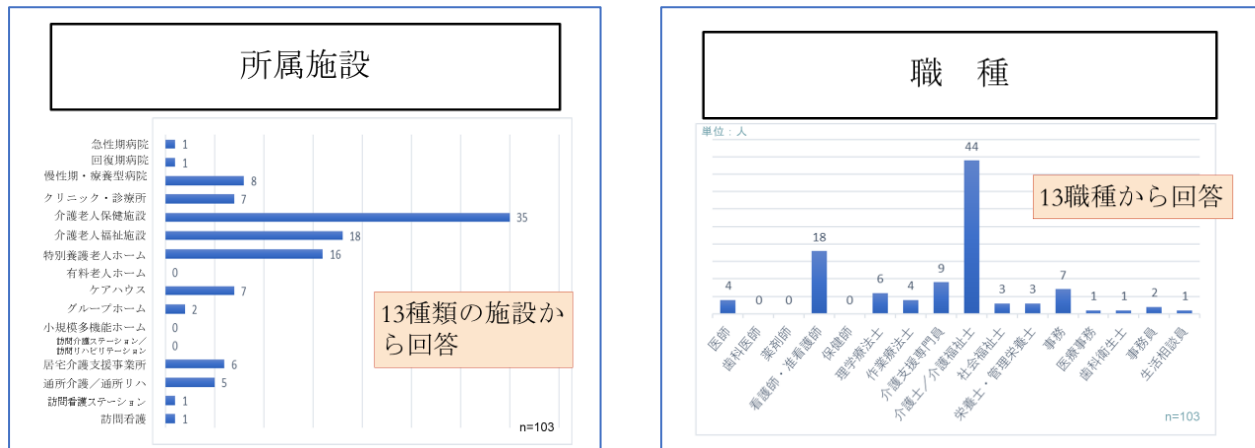
「認知症への関わりに関する認識調査」報告

2023 年 1 月 京都府言語聴覚士会 認知症委員会

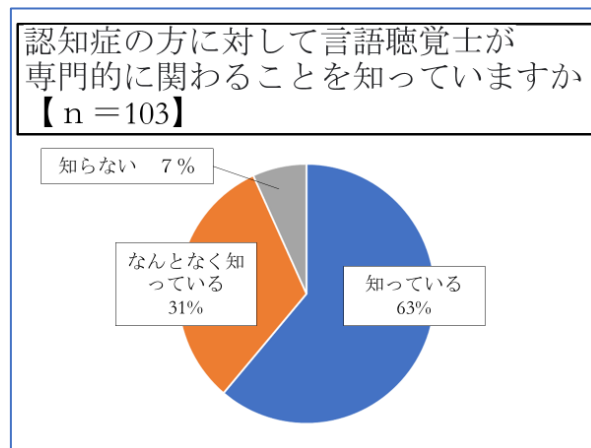
京都府言語聴覚士会の認知症委員会では、認知症に言語聴覚士（以下 ST）が関わることにに関して他職種がどのように認識しているかを明らかにするため、2022 年 1～2 月にアンケート調査を行いました。

【結果】

府士会会員所属施設の職員を対象にし、13 種類の施設、13 職種から回答を得られました（回収数 103）。



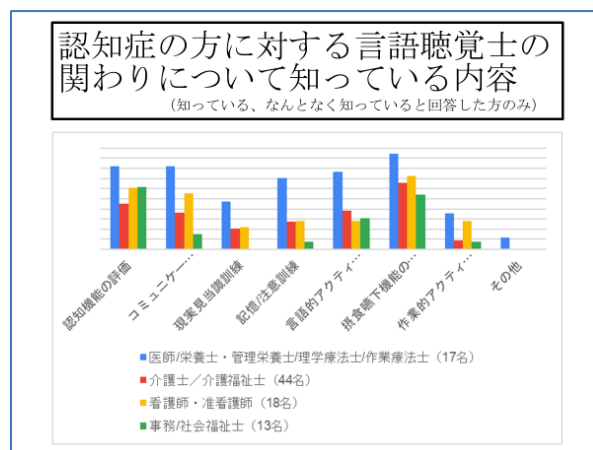
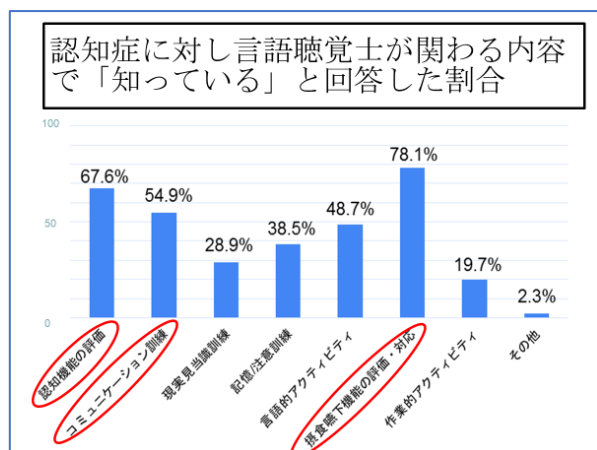
9 割以上が、認知症の方に対して言語聴覚士が専門的に関わることを「知っている、なんとなく知っている」と回答し、ST が認知症の方に専門的に関わっていることが広く認識されていることが明らかになりました。



認知症の方に対して言語聴覚士が関わる内容を項目別に尋ねたところ、「摂食嚥下機能の評価・対応」が 78%と最も高く、「認知機能の評価」67%、「コミュニケーション訓練」54%、「言語的アクティビティ」48%と続きました。

上記回答を職種別に分析したところ、医師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士は ST が認知症に関わる内容をほぼ全項目 5 割以上で「知っている」と回答した一方、介護士・介護福祉士では「摂食嚥下機能評価・対応」を 6 割が「知っている」としたものの、その他の関わりに関しては全般に 5 割以下と、職

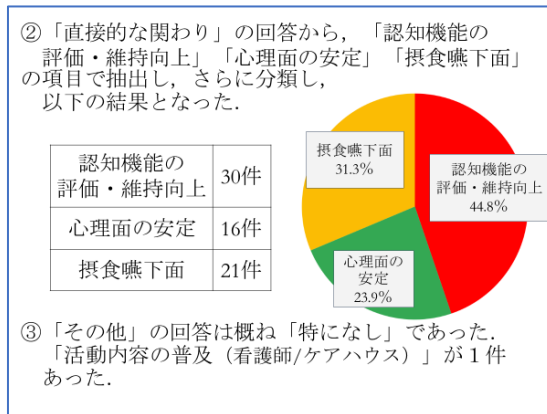
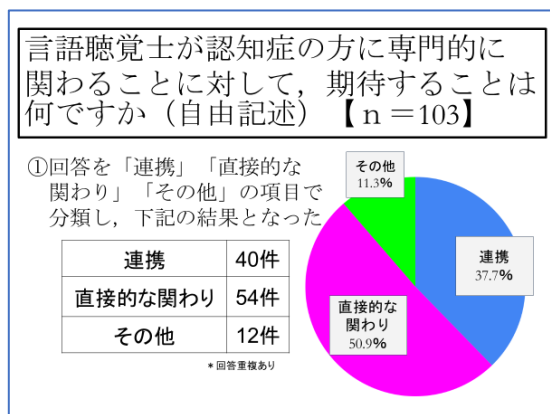
種間での差がみられました。



「言語聴覚士に期待すること」については、「直接的な関わり」50%、「連携」37%と続きました。

「連携」に関し、‘ケアカンファレンスでアドバイスをもらいたい（介護士/グループホーム）’‘在宅復帰場面で関わって欲しい（看護師/介護老人保健施設）’などのコメントが寄せられました。

「直接的な関わり」をさらに分類したところ、「認知機能評価・維持向上」44%、「摂食嚥下機能」31%、「心理面の安定」23%となりました。コメントには‘日常生活における有利不利の場面などがイメージできる検査結果などが見えると貴重だと思う（社会福祉士/居宅介護支援事業所）’、‘自己肯定感をアップさせ他者とコミュニケーションをとりたいと思えるよう訓練を行って欲しい（看護師/クリニック）’、‘回想法などで心の安定感を取り戻してあげて頂きたい（医師/介護老人保健施設）’など、ST に対する多様な期待が寄せられました。



【まとめ】

今回の調査結果から、ST が認知症の方に関わっていることが他職種で 9 割以上に知られているものの、関わる内容に関しては摂食嚥下以外では十分に知られていないことが明らかになりました。医師やリハビリテーション職では ST が様々に認知症と関わっていることが認識されている一方、介護士など他職種では摂食嚥下が中心であり、その他に関してはあまり知られていませんでした。

今後、ST が摂食嚥下以外にも認知症に対して専門的に関わることを他職種全般に広く知ってもらう必要があると思われます。ST への期待として「連携」に関するコメントが多く寄せられたように、ST が積極的に他職種と連携し、認知症の方にアプローチしていくことが重要だと考えます。

【記述回答】

職種	言語聴覚士が認知症の方に専門的に関わることに對して、期待することは何ですか
医師	認知機能維持のための介入
医師	認知機能/高次脳機能評価、訓練
医師	コミュニケーション能力、嚥下機能の維持と改善
医師	特に回想法などにより、認知症の方に楽しかったこと、活躍していたことを思い出していただき、その当時の心の躍動感を味わうことにより、幸せな気持ちになり、心の安定感を取り戻してあげていただきたいと思います。 また、言語訓練によって言葉での伝達能力を高めていただき、人と触れ合う機会が増加することにより、認知機能低下の歯止めになるようお願いしたいと思います。
看護師・准看護師	日常生活の中で、リハビリの時間は、ご利用者のいい気分転換や興奮状態のときのクールダウンとなることが多いように感じます。 ご利用者が、社会的にその人らしく過ごしていただける時間が持っていただけると、ご利用者も安心した時間が持てると思います。
看護師・准看護師	メンタルヘルス、コミュニケーションツールを導いていただいてアプローチの工夫を教えていただけたら良いケアに繋げるのではないかと思います。
看護師・准看護師	認知症状の予防や機能低下の予防 認知症状が進んでもその人らしく穏やかな生活ができるように援助してほしい
看護師・准看護師	専門的な関わりによってうまくいく内容を、広く共有拡散して頂きたい。
看護師・准看護師	口腔ケア
看護師・准看護師	他職種で関われるように連携をとれていけたらよいと思う。
看護師・准看護師	日常生活において、本人の出来ること苦手なことに着目し、どのような工夫で生活やコミュニケーションが充実、うまくいくのか教えてほしい。
看護師・准看護師	人は言語を話し、それを相手が理解してくれているという肯定感によって、コミュニケーション能力を発揮すると思うので、自己肯定感をアップさせ、他者とコミュニケーションとりたい、と再度思えるように、機能訓練を行って欲しいです。
看護師・准看護師	認知症の方でも自分らしく生活が継続出来るよう、多職種によるカンファレンスや、在宅復帰の場面等、もっともっと積極的に関わって欲しい。 摂食嚥下機能面に関しては、十分すぎるほど関わってもらい、施設全体のレベルもアップしてきている。
看護師・准看護師	声をだして、脳を活性化
看護師・准看護師	STさんは一対一で、個室の静かな環境で、リラックスして会話が出来るので、本人の思いを聞きだしやすいと思う。それを他の職種に還元して欲しい。
看護師・准看護師	効果的なコミュニケーションの取り方を介護、看護スタッフに教えて頂きたいです
看護師・准看護師	その人がもっている残存機能を生かしてどう関わればいいかを的確に教えてほしい
看護師・准看護師	活動内容の普及
看護師・准看護師	利用者さんご言葉を忘れずにいてほしいです。

理学療法士	咀嚼や嚥下だけでなく、食事姿勢や食席の環境などに関しての助言も頂き、利用者様の支援に関して様々な角度から考えるヒントをいつも頂いて助かっています。
理学療法士	認知機能へのアプローチや、低下して行く嚥下機能の評価など
理学療法士	認知症の進行を遅らせる効果を期待します。
理学療法士	できることの評価と今後の予測、介護現場やご家族との生活での工夫、一緒に悩むこと。
理学療法士	環境整備へのアドバイス
理学療法士	見当識の改善、食思向上、不穏改善
作業療法士	利用者・家族様の平穏
作業療法士	言語的・非言語的な評価の充実。記憶・注意機能に対する取り組み
作業療法士	特養で勤務していて感じることで、認知機能を考慮し摂食・嚥下の評価ができることは必須。また失語症状で躓くケースも多いため介入による期待は高い。 他職種連携の中で、医療と生活を繋ぐ役割を持てること。脳画像から病態理解、生活の中で他職種や家族が感じる「なんで？」に対して根拠を持った説明ができ、生活機能を維持するためのヒントを見つけられること。 OTとしては、病院や施設、地域など関わる場所を問わず、脳画像や認知機能検査等からできる力を引き出すような視点を一緒に考えたり、今後の展望を話せるような ST さんがいて欲しいと思っている。
作業療法士	アクティビティを通した余暇活動の促進と生活への汎化。回想法も含め、語りによりその人の生活歴等を聞き取ることに強みを持っておられると思うので、その情報をチームで共有していただき、より個別性のある支援がなされることを期待します。
栄養士・管理栄養士	他職種との連携や情報共有、色々教えていただきたいです。
栄養士・管理栄養士	認知症によって食事摂取量が低下することもあるため、そのようなことも踏まえて連携していけるようになれたらいいと思う。
栄養士・管理栄養士	状態変化があった際に、多職種で食事形態変更についての意見が分かれた場合の専門的な立場からの助言。 リスクはもちろんであるが利用者のニーズに添って、共に考えてほしい。
介護士／介護福祉士	摂食嚥下評価
介護士／介護福祉士	摂食嚥下機能の評価・対応することです。
介護士／介護福祉士	摂食状態や嚥下機能の評価・対処の仕方
介護士／介護福祉士	嚥下機能の評価、食事介助の方法の指導
介護士／介護福祉士	嚥下機能の維持
介護士／介護福祉士	嚥下機能の維持に対して言語聴覚士によるアプローチ
介護士／介護福祉士	食事に関して。普段自己摂取の方の変化には、気づきにくいので違和感がある場合は伝えて欲しい。
介護士／介護福祉士	誤嚥性肺炎防止や認知機能の維持に期待します
介護士／介護福祉士	食べることに對して関わりもってほしい

介護士／介護福祉士	特に食事について(咀嚼、嚥下)の評価をしてもらうことで利用者の誤嚥等のリスクを予防できる。また、利用者の言語機能等の低下を少しでもおさえられるように評価、対応または、介護職員でできることのアドバイスをもらえればと思います。
介護士／介護福祉士	とろみが必要な方に対して的確な量
介護士／介護福祉士	各利用者様が安全に食事ができるようにこれからもお願いします
介護士／介護福祉士	誤嚥性肺炎対策や体位の状態や失語症の方へのコミュニケーション等の知識を深く知りたいです。
介護士／介護福祉士	コミュニケーション訓練によって認知低下を予防、食事形態や咀嚼、嚥下機能の向上
介護士／介護福祉士	嚥下機能の改善、会話を通してコミュニケーションが図れるようになる。
介護士／介護福祉士	ゆっくり時間をとりアプローチできる場を提供して本人の生活が穏やかに送れるような環境を整えてあげてほしい
介護士／介護福祉士	認知症ケアにおいて有効的な関わり方があれば共有したい
介護士／介護福祉士	言語聴覚士としての関わりから見えた事の共有
介護士／介護福祉士	傾聴して寄り添うこと
介護士／介護福祉士	利用者の平穏と安心
介護士／介護福祉士	認知機能の変化があれば教えて欲しい
介護士／介護福祉士	自分の意見が言える
介護士／介護福祉士	認知症の進行を遅らせたりしてほしい。
介護士／介護福祉士	神経心理検査の結果から生活に役立つ情報を支援者で共有でき、ケアにいかせればと思います。
介護士／介護福祉士	ADL の維持
介護士／介護福祉士	認知症の方が会話をする能力を忘れさせない、衰えをなめらかにする。
介護士／介護福祉士	昔のことを思い出して心穏やかに過ごせるように
介護士／介護福祉士	認知症を持つ利用者のケアカンファレンスに参加してもらい、アドバイス等もらいたい。自分たちのケアの根拠づけになると自信を持って仕事ができる。
介護士／介護福祉士	認知症に対するアプローチを介護職と一緒に検討していただけたらと思います。
介護士／介護福祉士	他職種との連携をはかって頂き情報提供を共有し認知症の方の関わり方を勉強出来たらと期待します。
介護士／介護福祉士	認知症の方の生活が、その人なりに張りのあるものに近づくこと。
介護士／介護福祉士	タイプ別認知症型によるコミュニケーションのとり方など
介護士／介護福祉士	他職種とも連携がとれて、より良い介護に繋がることに期待します。
介護士／介護福祉士	利用者の介護、対応がしやすくなってほしい
介護士／介護福祉士	生活の質の向上
介護士／介護福祉士	まずはどういう関わりがあるのかを調べてみます
介護士／介護福祉士	言葉を発する能力の維持
介護士／介護福祉士	認知の方にかぎらず思い出せない言葉を思い出せるような事
介護士／介護福祉士	その人らしく生きていける

介護支援専門員	医師でもない、看護師でもない言語聴覚士としての専門性の発揮と他職種との協調
介護支援専門員	他職種連携
介護支援専門員	チームとして関わりを持っていただくことで、ありがたい存在です。
介護支援専門員	認知機能の評価を共有して欲しい
介護支援専門員	認知機能の状態はそれぞれに違うと思います。現場の職員が利用者個々の力を正しく理解し、その方に合ったケアができるようにサポートして頂けるとありがたいです。 例えば評価結果の共有、機能維持に有効な関わり方の指導・助言など。
介護支援専門員	機能維持の為に生活に取り入れると良い事を教えて欲しい。嚥下機能の評価と対応。
介護支援専門員	元気になる
介護支援専門員	コミュニケーションに対する言語面でのリハビリの効果
介護支援専門員	在宅では、ご家族が介護をされる中で少しでも認知症の方への理解や介護負担が軽減できるように専門的な視点での提案、助言などをお願いしたいです。
社会福祉士	他職種との連携
社会福祉士	患者へのリハビリテーションを通して患者のより良い生活環境作りのため家族、周辺の支援者へも良い影響を与えてほしい。
社会福祉士	認知機能の評価、特に日常生活における有利不利の場面などがイメージできる検査結果などが見えると貴重と思う。また、検査実施時やリハビリ実施時の、その方の所作というか会話や雰囲気なども、検査場面やリハビリ場面でしか見られない貴重な情報となり得ると思うので、それらを他職種に共有頂けたら効果的かと思う。
生活相談員	認知症の方とのコミュニケーション方法
歯科衛生士	認知機能低下の予防、嚥下機能低下の予防
事務	他職種との連携
事務	正直どんな仕事なのかを存じ上げませんでしたが、本人さんのコミュニケーション能力や食べることの低下が、少しでも緩和されたらいいと思います。
事務	認知機能維持の為に定期的な検査、訓練される事は効果的だと思います。
事務	認知症悪化の減退
事務	向き合って話すことで、心を開いて貰いたい
事務	言語の訓練でコミュニケーションがはかれるようになる事。
事務	認知症症状の鈍化
事務	あまり詳しく知識がないので、容易に答えることができません。